



# 国際交流員の活動日誌

vol.51



## Information

市政だより英語ダイジェスト版を市役所、総合支所、保原駅、梁川駅で配布しています。

## 「食べ残しは持ち帰り」

### Leftovers Come Home

6月は蒸し暑く、食べ物が早く悪くなってしまふことが来日してからわかりました。そのために日本では飲食店から食べ残しは持って帰れないと教えてもらった事ありますが、僕にはまだまだ不思議です。なぜなら米国では、一歩店を出ると食品の保存は客の責任となり、飲食店で買った料理の食べ残しは持ち帰れるのが当たり前だからです。

初めて来日したとき、歓迎の店から食べ残しを持ち帰れなかったことに大変驚きました。店で食べ物を残すことは「料理の味が良くないので今後も食べられない」の意味しかないと思っていました。子どもの時から食べ物の大切さを親に教えてもらったからです。家族で外食したら必ず店が提供した発泡スチロールや紙の容器で食べ残しを持ち帰り、次の日もその美味しい料理が楽しめました。夕食を外で食べた日の翌朝は誰よりも早く起きて、食べ残しを静かに冷蔵庫から取り、勝手に完食した時が多かったです。

この間ファミレスに行くと、メニューに「食べ残しの容器を提供する」の文字を初めて見ました。喜んだ僕は普通よりも注文してしまい、家に持って帰りました。これからの外食では、同じ事を必ずするつもりです。食べ残しを持ち帰れる店に感謝したいです。

## 地域の魅力 ふる里再発見

### 養蚕技術を普及させた偉人

～渡邊源兵衛～

企画展

渡邊源兵衛と養蚕

7/25①まで開催

保原歴史文化資料館

伊達市保原歴史文化資料館では、企画展として「渡邊源兵衛と養蚕」を7月25日①まで開催しています。

伊達市は、江戸時代後半に幕府から「蚕種本場」の称号を許され、蚕種製造の一大生産地としての地位を確立しました。

明治時代となり、養蚕は輸出の花形となりました。このため、全国から養蚕業の先進地区である伊達地方に全国から桑苗・蚕種の注文がなされました。渡邊源兵衛は、福島県勸業課御用達として全国に桑苗・蚕種を発送していました。



資料①桑苗荷造仕切帳

資料①は明治21年（1888年）の「桑苗荷造仕切帳」です。全国の府県から郡単位で注文を受け付け、

資料②明治21年桑苗・蚕種発送先



発送を行っていた記録簿です。この年には②のように源兵衛翁から全国に桑苗・蚕種を発送していますが、この年以外の記録でも、ほぼ日本全国に発送しています。

この他に、全国から養蚕を指導する教師の派遣や伝習生の受け入れなど養蚕に関するさまざまな依頼が届きました。源兵衛翁は、全国からのさまざま依頼に応え、伊達地方が全国でも屈指の養蚕先進地区であることを印象付けました。このため、各地から感謝の書簡が届きました。